



感謝の倍返し

加藤直人

ろうと、どちらがなんだろ
うが受け止めて意見をもら
る場だと実感した。
そうだから討論は生き生き
して楽しい。障害当事者もど
しどし。出席者の熱い心情と
連帯感を肌で感じた。だから
毎年参加したくなる。これを
改めて知らしめた菌部さんあ
りがとう。

和歌山で33年間共同作業所
などの仕事をしてきた。

全障研といえば就職1年目
の夏、確か第13回大会で「た
つのこ共同作業所」の実践を
報告したのが出会い。和歌山
でも作業所は今風に言えば
「障害のない他の者との平等
を求めて」手探りでスタート
した。元から制度や資金があ
るわけではない。しかし全国
で同じ夢を持った仲間たちが
いたことが私たちを元気にさ
せた。

その間に障害者分野も措置
制度が解体され契約に変わり
福祉も営利企業が参入する時
代になつた。市場競争でよい
は、些細なこと、初步的であ

のか？ 高齢、保育分野もこ
れにさらされる中で障害分野
から反旗を翻したい。

事実、2010年の基本合
意はその端緒だ。だから今進
行中の社会保障改悪プログラム
に黙るわけには行かない：

* * *

僕自身は全障研には長らく
ごぶさただったが、2009
年の第43回茨城大会に菌部事
務局長に誘われて以来、44回
名古屋、45回大阪、46回広島、
今年47回弘前と連続して大会
分科会の役割を持たせても
らつた。全障研大会の分科会
は、些細なこと、初步的であ

アラウンド
GOGO
55

お礼ついでにもうひとつ、
この場を借りて。30数年前、
就職あぶれ組の何もわからず
和歌山に来た自分を長い目と
広い心で受けてくれた作業所
関係者となかまのみなさん方
には今もつて感謝の念を持つ
ている。教わったことを一つ
あげるならば、「障害のある
なかまたちに学べ！」だ。
感謝を述べたからといって
これで終わるわけではない。
「これから始まるのだ」。今ま
での仕事を卒業し、本当の運
動をこれからみんなと始めた
い。感謝の念の倍返しだ（今
時風にね）。